

新型コロナ関連

県内新たに424人感染

高齢者の歩行 ロボが補助

南相馬市に開発拠点のあるベンチャー企業は、歩くことがやや不自由になった人をサポートする歩行補助ロボットの開発に取り組んでいる。

大内宿、3年ぶり雪まつり



下郷町の大内宿で第37回雪まつりが始まった。雪灯籠や雪像のライトアップが行われ、観光客が白銀に染まった宿場町の風情を楽しんでいる。11日まで。

鈍器で頭部殴打か

いわき市勿来町で発生した強盗殺人事件で、小松ヤス子さん(85)は鈍器のようなもので後方などから頭を複数回殴られたとみられることが分かった。

マイストーリー

いわきスポーツクラブ社長 大倉 智さん 4

テレビ放送開始から70年 3

中国の気球、米軍が撃墜 5

車いすラグビー日本V 11

広域強盗、あすにも送還 19

特集 健康 7 シニア 13
お梅やみ 10 窓 15 小説 6
暮・将棋 6 PM2.5情報 17

きょう	天気	あすから
6	12	18
24時	7日	8日
9日	10日	11日
12日		
福島	晴	晴
二本松	晴	晴
郡山	晴	晴
須賀川	晴	晴
田村	晴	晴
白河	晴	晴
相馬	晴	晴
南相馬	晴	晴
浪江	晴	晴
平	晴	晴
小名浜	晴	晴
若松	晴	晴
喜多方	晴	晴
猪苗代	晴	晴
西会津	晴	晴
田島	晴	晴
東京	晴	晴
宇都宮	晴	晴
水戸	晴	晴
仙台	晴	晴
山形	晴	晴
新潟	晴	晴

2023年(令和5年) 2月6日 月曜日
旧暦1月16日 仏滅 五黄

発行所 福島民友新聞社 〒960-8648 福島市柳町4-29 代表電話 024-523-1191 www.minyu-net.com

福島民友

安心・安全・快適 キョウワグループ

57th Anniversary

キョウワプロテック キョウワセキコロブ

横田(学石) マラソン学生新

別府大分毎日4位
別府大分毎日マラソンは5日、大分市高崎山つみたまご前からジェイリーススタジアムまでのコースで行われ、横田俊吾(青学大、学石石川高卒)が日本学生新記録となる2時間7分47秒で4位となった。横田は、10月のパリ五輪代表選考会マラソンクラウンドチャンピオンシップ(MGC)の出場権を新たに獲得した。

2時間7分47秒



2時間7分47秒でゴールする。4位横田俊吾(ジェイリーススタジアム)

大橋信夫さんが死去

75歳 元JA福島五連会長

大橋信夫(おおはしのぶ)氏は5日午前8時40分、肺炎のため、伊達市梁川町細谷字原52の自宅で死去した。75歳。通夜は10日午後6時、告別式は11日正午から伊達市保原町のみ再編に力を尽くした。東日本農業新聞の編集長として、21年の秋の叙勲では、旭

川柳コンテスト 2022-23

ハローキティのニュースを探せ!

加藤久仁生監督の短編アニメ「つみきのいえ」は、海面の上昇で積み木のように建て増した家の物語。米アカデミー賞の部門賞を受賞したのを覚えている人も多いのではないかと、前回は先立たれて、そこに1人で暮らしている老人の姿が描かれる。後半の舞台は、既に海中に沈んだ部屋の中。愛用のパイプを手に、商人から潜水服を買って、かつて住んでいた部屋を下へとたどり着いていく。病床にある妻を介護した日々、孫が生まれて家族で記念写真を撮った日、娘が結婚の相手を手を連れた日、その時々思い出が老人の脳裏に浮かんで消える。海底にあるかつての陸地では木の下で幼なじみに求婚し、2人でけんがを積み、家を建てたことを思い出す。県が、県立高校の統合により空き校舎となる建物を立地の市町村に無償で譲渡することにした。市町村が地域の事情に合わせて柔軟に活用できるようにする。母校の行く末を案じていた人には、ほっと胸をなで下ろすニュースだろう。学校など多くの人が過ごした建物には、数え切れない記憶が詰まっている。そこに行けばいつでも、誰かの思い出があなたを待っている。2023.2.6

地域への支援

「ローカルビジネスの活性化が地域を元気にする」。大手企業が集まる東京・港区で、相原健さん(46)は南相馬市原町区出身。地域経済の振興に挑んでいる。ローカルビジネスは飲食店や美容室、宿泊施設など地域に根差した店舗型事業者の総称で、全国に134万店舗あるとされる。全ての店舗で集客が1日に1組増えれば年間5兆円の経済効果を生む。そんな試算もある日本経済の成長を支える市場を舞台に、本県を含む顧客の集客力の向上を目指す「マーケティング(市場戦略)支援に取り組む。

地域の店集客後押し

古里の商店街が原点。相原さんは、南相馬市原町の商店街に生まれ育ち、失っていく光景を見て育ったという。東日本大震災で古里が大きな被害を受けたことで地域振興への思いがより強くなった。一時は政治家として貢献する道も考えたが、「さまざまなかみのある政治の世界で志を貫くのは難しい」と判断。デジタル技術を活用したマーケティングで地域を支えようとする。2011年(平成23)年10月に起業した。「インスタグラムの活用など消費者の店を探す手法は多様化しているが、店舗が追い付いていない」。相原さんは人材が豊富な大手企業と比べ、ローカルビジネス業界はウェブや交流サイト(SNS)などを活用したマーケティングが不得手だと指摘。主力サービスとして、近隣エリアの消費

者ニーズの把握や広告の自動化配信、ホームページ作成など、専門知識がなくてもデジタルマーケティングに取り組みやすいシステムを提供している。危険に真価問われた順調に業績を伸ばしたが、会社が存続の危機に立たされた時期もあった。国内で新型コロナウイルスの感染拡大が始まった2020年1月以降、当時の顧客の9割以上を占めていた飲食店が打撃を受けたことで、業績が悪化し赤字に転落した。「今こそローカルビジネスを救おう」。奮起を促す標語を社内のあらゆる場所に掲示した。美容業界でも自社サービスの強みを生かせることを考え、顧客の獲得に動いた。21年9月期には過去最高益を更新し、同12月に新興企業向けの東証マザーズ(現クローズ市場)に上

場した。相原さんは「顧客が壊滅的な被害を受けている時だからこそ社の真価と使命が問われた」と振り返った。子どもの成長を支える本県との関わりも持ち続けてきた。震災の被災者を支援するNPO法人の活動に参加し、資金援助や、社員と共にボランティアとして本県を含む被災地の児童養護施設の子どもの成長を支えてきた。本県に愛着を湧いた社員の一は会社に在籍したまま浪江町に移住したという。図らずも被災地への「転職なき移住」の推進につながった。今も2月1日に1回ほど実家のある南相馬市を訪れる。原町を元気にしたいとの初心は忘れずにいる。復興をさらに前に進めるためには「産業の育成と成長が必要だ」と感じている。相原さんは、新しい産業が次々に誕生する光景を思い描きながら古里に寄り添い続ける。

日小綾章を愛した。会長退任後も「風評を乗り越えて、福島再生を成し遂げよう」と語り、本県農業の伸展を見守った。

■Bリーグ「記事10面」
ホンズ70-84 越谷

ご購読申し込みは
0120-152214へ
https://www.minyu-net.com/
みんゆう 検索

須賀川ガスが

太陽光の余剰でんき 地域最高値

10円以上/kWh

(税込)

で買取ります!!

2019年11月より10年間の余剰電力買取期間が順次満了します。余ってしまう太陽光のそのでんき

福島初地域新電力の須賀川ガスが買取ります

- 1 高価買取 地域最高値10円以上で買取ります。*
- 2 買取保証 2年間提示金額で発電可能です。
- 3 費用0円 切り替えの手数料などお客様の負担はありません。

須賀川ガスは福島初の新電力として唯一自社で発電・需給管理・販売を行っています。蓄でんち・太陽光の設置実績多数!!お気軽にお電話ください。(小売事業者登録番号A0011)

経済産業省選定 地域未来牽引企業

SUKAGAWA GAS 0120-56-2188

須賀川瓦斯株式会社